

# むさしの・ガーデン紀行 令和7年度 登録計画実施報告書

むさしの・ガーデン紀行連絡協議会 令和8年4月



むさしの・ガーデン紀行  
MUSASHINO GARDEN JOURNEY

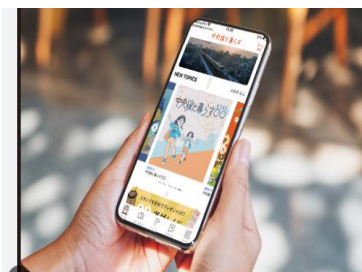
## ■具体的な事業の実施状況

### 1) 森の地図スタンプラリーの実施

#### 第22回 「むさしの」の春を愛でる編 — 令和7(2025)年4月1日(土)～6月8日(日)

むさしの・ガーデン紀行の基幹活動である「森の地図スタンプラリー」を春に行った。ここ2年秋開催が続いていたが、準備を21回開催(秋)と並行して、早めにスタートしたことで実現できた。今後は、春開催と秋開催を年度により交互に行い、地域の良さを偏りなく参加者に体験していただくことを基本計画とする。また、交通事業者との連携(JR東日本、京王電鉄、西武鉄道)が定着し、デジタルスタンプラリーにおいては、ラリーポイントが全66箇所(21回)から77箇所(22回)に増えた。参加者のデータ記録が残るデジタルスタンプラリーにおいては、施設訪問数において、17,387回(21回開催)が23,202回(22回開催)と今回も大きく伸びた。

	開催日数	方式	参加者数	景品応募者数	施設訪問数
2023年 (20回)	65日間	デジタルスタンプ	742(登録参加者)	808名(各賞合計)	12,303(実数)
		リアルスタンプ	8,147名(推定)	689名(参加賞)	9,338(推定)
		合計	8,889名(推定)	1,497名(実数)	21,641(推定)
2024年 (21回)	72日間	デジタルスタンプ	882(登録参加者)	1,016名(各賞合計)	17,387(実数)
		リアルスタンプ	7,389名(推定)	706名(参加賞)	9,568(推定)
		合計	8,271名(推定)	1,722名(実数)	26,955(推定)
2025年 (22回)	72日間	デジタルスタンプ	1,188(登録参加者)	1,222名(各賞合計)	23,202(実数)
		リアルスタンプ	8,596名(推定)	830名(参加賞)	11,205(推定)
		合計	9,784名(推定)	2,052名(実数)	34,407(推定)



●デジタルスタンプラリーは、JR中央線コミュニティデザインとの連携で「中央線と暮らす」のアプリ上で行った。これにより、JR東日本とも連動した広報が実現。

●デジタルでは、スマートフォンのGPS機能を使い、ラリーポイント圏内でスタンプを取得できる。

●スタンプラリー開催期間中のオープンカフェ&パネル展示会場では、日時限定のスペシャルスタンプ(リアル)を設置した。

## 2) モデルコースの策定

今年度は、地域の歴史と自然を深く体験できる国分寺エリアでモデルコースを策定し、森の地図スタンプラリーの春開催に合わせ、モニターガイドツアーを行った。コースには国名勝の都立殿ヶ谷戸庭園や武蔵国分寺跡、都立武蔵国分寺公園を組み込み、こくぶんじ観光まちづくり協会のボランティアガイド、武蔵国分寺公園のパークレンジャーの協力を得て行った。朝スタートの半日コースで参加料は、3,000円、定員10名を少しオーバーした12名で行った。地域の歴史や自然について、より掘り下げたガイドを実現でき、参加者から好評を得た。また、ゴールの武蔵国分寺公園では、マルシェイベントが行われていたので、時間のある参加者はランチタイムを楽しむこともできた。



●国分寺編の行程



●武蔵国分寺公園



●武蔵国分寺跡

## 3) オープンカフェ&パネル展示の実施

継続事業として、森の地図スタンプラリーの開催に連動して行っている「オープンカフェ&パネル展示」を行った。感染症(コロナ)対策として実施場所と時期を分散し、密にならない屋外でカフェやパネル展示を行うものとしてスタートした企画。今回は、神代植物公園と武蔵国分寺公園の2箇所で行う予定であったが、天候の関係で、武蔵国分寺公園会場が中止となり、神代植物公園会場で2日間行った。パネル展示は神代植物公園の歴史をテーマとしたもの。神代植物公園では、春のバラフェスタが開催中で、バラコンサートが同日開催で行われた。会場には、期日限定のスペシャルスタンプを設置した。また、バラコンサートには、近隣の構成庭園である深大寺のお坊さんのトーク参加企画もあり、構成庭園間の連携の輪が広がった。



●スペシャルラリーポイント



●キッチンカーと大学生スタッフ



●同日開催のバラコンサート

## ■その他の事業

### 1) 地域を象徴するイベントの創出：「公園でやきいも」2026の実施

地域の多様な主体の連携により、むさしのエリアの年間行事のひとつに育てることを目標とするもの。従来行われている単なる飲食イベントの焼き芋フェスとは異なり、焼き芋を参加者が実体験する点が最大の特徴。むさしのエリアの象徴的なイベントとして、むさしの・ガーデン紀行の構成庭園間で循環開催をめざすものである。昨年の第1回とは場所を変え、第2回の今回は都立野川公園で行った。燃料の小枝を拾ったり、公園の伐採木で薪割りをするなど、資源の循環についても参加プログラムに組み込み好評を得た。また、食材の「さつまいも」は地元三鷹農家産のものを購入、使用した。

本イベントは、昨年の小金井公園実施と同様、高い反響があり、予約受付開始後数日で満席となった。今後も当初の目的である「むさしの地域を象徴するイベント」に成長できるよう改善と工夫を重ねて行きたい。第3回の実施（令和8年秋～冬の予定）に向け、関係者間で検討、協議を進めていく。

「あったらいいな」をみんなでつくる公園プロジェクト

# 「むさしの」の公園でやきいも 2026

@ 都立野川公園 BBQ広場

2026年2月7日(土)  
※雨天時は2月8日(日)に繰越  
12:30～15:00  
12:20会場集合・受付

澄みわたった空の下、広々とした公園で、みんなでやきいもを焼きまぜませんか。今回は、都立野川公園のバーベキュー広場で開催！  
小枝拾い、まき割り、火起こしなど、野川公園ならではのプログラムも用意しました。皆さま、どうぞふるってご参加ください。

### プログラム

- 小枝拾いガイドウォーク  
パークレンジャーによるガイドウォークで、冬の野川公園を歩きながら、みんなで小枝拾い！
- 薪割り・火起こし  
やきいものために火を準備！
- みんなでやきいも！  
みんなで集めた小枝と、みんなで煮たやきいも！

やきいものほかに・・・

- ベジチェック  
あなたの野菜のとり方が足りているのか、かんたんにチェック！
- キッチンカー  
地域で活躍しているキッチンカーも来場。やきいもといっしょに楽しめます！
- パネル展示  
地域の農業ややきいもの歴史などをわかりやすくパネルで展示します！

### 申込方法・参加費

- 定員：先着30名（事前申込）  
下記の申込フォームから事前申込  
<https://forms.office.com/r/d6x951j181>
- 参加費：1人500円（税込）（大人・子ども共通）  
地元三鷹市のさつまいも1本付き、保険代込み
- 対象：小学生以上だけれども  
小学生未満は家族同伴で参加可

「あったらいいな」をみんなでつくる公園プロジェクトとは？公園をもっと魅力ある場所にするために、地域に「あったらいいな」をカタチにする活動を始めました。この日は、楽しめたのプロジェクトです。

問合せ：「むさしの」の公園でやきいも事務局（武蔵野コックワイルド）  
メール：[info@muosashino-cottswild.com](mailto:info@muosashino-cottswild.com) 電話：0422-32-0962

■社 係：むさしの・ガーデン紀行連絡協議会/武蔵野の公園パートナーズ ■協 力：明治安田生命武蔵野支社

#### 【実施概要】

実施日時：2026年2月7日（土）12：30～15：00

実施会場：都立野川公園・バーベキュー広場

定員：30名（満席）※予約制

参加費：500円 ※小学生以上

プログラム：小枝拾いガイドウォーク／薪割り・火起こし／みんなでやきいも／ベジチェック／パネル展示／キッチンカー／地元カフェ

共催：むさしの・ガーデン紀行連絡協議会／武蔵野の公園パートナーズ

協力：明治安田生命武蔵野支社／JA 東京むさし／地域で活動するキッチンカー、pizza3110（窯焼きピザ）や地元のカフェ（珈琲と焼菓子）

### 2) セミナー&交流会の実施

むさしの・ガーデン紀行として初めての企画である「セミナー&交流会」を実施した。セミナーは「むさしの地域の価値創造セミナー」のタイトルで、これまで行ってきた「森の地図スタンプラリー」の効果や地域にもたらす恩恵などを具体的なデータで検証。今後の広域回遊や地域活性の可能性について議論した。交流会では協議会メンバーと地域のステークホルダーによる新たな出会い、交流が生まれた。



#### 【実施概要】

実施日時：2026年2月13日（金）15：00～18：00

実施会場：武蔵野スイングホール・レインボーサロン

参加者：26名（パネラー含む） ※予約制

参加費：一部セミナー1,000円 二部交流会2,000円



### 3) 地元大学連携：亜細亜大学・久保田ゼミ

#### ●イベント開催時の協力

武蔵野市にある亜細亜大学・経営学部ホスピタリティ・マネジメント学科、久保田ゼミとの連携が4年目となり、むさしの・ガーデン紀行の活動を支える貴重な戦力となっている。今年もゼミ生が地域を知る機会としてスタンプラリーに参加し、イベント開催時にはボランティアスタッフとして協力した。

#### ●インタビュー企画

今年度の新しいコラボ企画として、亜大生が構成庭園や観光協会を訪ね、現地のスタッフの話を聞いてまとめるインタビューを行った。今回は亜大生が4班に分かれ、深大寺、野川公園、神代植物公園、武蔵野市観光機構を取材し、インタビュー記事として原稿にまとめた。原稿は、取材先の確認を経て、むさしの・ガーデン紀行のHPに掲載された。この企画は、今後、継続した企画として、構成庭園を順番に取り上げて行く予定である。



●イベントスタッフで協力



●ゼミ生と先生



●インタビュー記事をむさしの・ガーデン紀行 HPに掲載

### 4) さいたま市みどり推進課様視察ツアーの実施

さいたま市都市局みどり推進課様から依頼があり、「むさしの・ガーデン紀行」の視察ツアーを行った。主要な構成庭園を巡り、現地スタッフともども当地の魅力や取組みの特徴について説明を行った。視察ツアー後は、神代植物公園の会議室で情報交換会を行い、ガーデンツーリズムの課題なども話し合った。

#### 2026年3月24日(火) 行程

- ・都立殿ヶ谷戸庭園 ② (集合) 13:00  
ガイド・見学 13:10~14:00
- ↓
- ・都立野川公園・自然観察センター⑦  
ガイド・見学 14:20~14:40
- ↓
- ・深大寺 ⑪ 15:00  
ガイド・見学 15:00~15:20
- ↓
- ・都立神代植物公園 ⑩ 15:20  
ガイド・見学 15:20~16:00
- ↓
- ・情報交換会 16:00~16:40
- ↓
- ・JR 中央線三鷹駅(解散) 17:00



●殿ヶ谷戸庭園にて



●野川公園・自然観察センターにて

## ■今後の展開と課題

前年度に引き続き、国土交通省の官民連携まちなか再生促進事業で、令和5年3月に策定した未来ビジョン、みんながつながる「ひとつの大きなガーデン」を念頭に、地域のステークホルダーを巻き込みながら取組みを推し進める。当面の主な課題は下記である。

- ・持続的、安定的な事業運営のための組織づくり
- ・協議会内の情報の共有をベースにした発信力の強化と地域ブランディングの促進
- ・交通事業者など地域の多様な主体（ステークホルダー）との連携強化
- ・収益基盤の確立（協賛企業の獲得、地域を象徴するイベントの創出、オリジナルグッズ（お土産品）の開発・販売、共通入園券や有料の公式ガイドブックの検討と着手）

### みんながつながる「ひとつの大きなガーデン」 ～東京のまんなかにある水と緑と歴史の回廊～



●未来ビジョンのイラスト